

C-3 : プレアワード

プレアワード業務におけるマーケティングの活用

8月30日（水） 13:50-15:20 会場E（4階）

競争的な研究資金に対するプレアワード業務は、URAの役割の一つとして期待されています。学内の研究者を顧客と捉えると、顧客のターゲティングや優良顧客の育成など、マーケティングの考え方とプレアワード業務は、親和性があると考えられます。マーケティングについて知らなくても、無意識のうちにマーケティングの考え方を身に着けている人は多くいます。一方で、同じ業務をするときに、マーケティングを知って実行するのか、知らずに実行するのかによって、得られる結果に差が出るかもしれません。

セッションの前半は、マーケティングを専門としてきた立場の講師から、マーケティングの考え方や方法論について、プレアワードに引き付けた話をさせていただきます。また、メトリクス分析の立場の講師から、研究IRをマーケティングリサーチと見立てて、プレアワードにおける活用法を提案させていただきます。セッションの後半は、プレアワード業務において効率的に成果を得るためにはどうすればよいか、会場の参加者の皆さんとともに、議論を通じて探りたいと考えています。

オーガナイザー／司会者



平井 克之：新潟大学 研究企画室 URA

日本郵便にてコンプライアンス、人事、業務企画部門等を経て、平成27年10月から現職。研究資金申請支援等のプレアワードと研究IR業務を担当している。博士（理学）。

講演者

**本間 紀美** : 埼玉大学 研究機構URAオフィス URA

医療機器、製薬メーカー勤務を経て、海外研究機関にて医学系基礎研究に従事。平成26年9月より現職。研究論文の計量書誌学的分析や科研費獲得状況分析等、研究力評価を担当。また、産学官連携・医工連携プロジェクトの競争的資金獲得支援も行っている。博士（理学）。AIPE認定 知的財産アナリスト（特許）。

**三宅 雅人** : 奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構
准教授 国際共同研究担当ディレクター

英国ケンブリッジ大学教員、国内の半導体装置メーカー、外資系半導体装置メーカーのテクニカルマーケティングマネージャー、新規技術分野推進室・室長を経て2014年1月にURAとして本学に着任。その後、研究推進機構の准教授に、現在は国際共同研究担当ディレクターとして、国際共同研究推進ならびに産官学連携業務を行っている。

**山崎 義広** : 新潟大学 大学院技術経営研究科 特任助教

メーカー勤務（セールス及びマーケティングを担当）を経て、2014年新潟大学大学院技術経営研究科にて修士号（MOT）取得。2017年、同大学大学院現代社会文化研究科にて博士号（学術）取得。同年4月より新潟大学大学院技術経営科特任助教。2014年よりJA新潟中央会JA戦略型中核人材育成研修講師。主な専門・関心領域はブレイス・ブランディング、関係性マーケティング、プラットフォームデザイン。